

## 日本の貨物列車 北海道編 正誤および現況解説

DVD「日本の貨物列車 北海道編」をお持ちの方にお知らせいたします。

発売後に、キャプション(字幕)やナレーションに誤りがあることが判明しました。お詫び申し上げます。

恐縮ですが、視聴の前に、下記の内容をご確認くださいませようお願いいたします。

さらに2007年のDVD発売から現在までの間に、様々な変化が生じており、

その状況を、主に2013年現在で記載しましたが、2018年3月改正では、さらに変化しています。

その点をご了承ください。

### 記

#### 【正誤訂正一覧】

##### 1. 第2部 4091 レのナレーション

**誤** 4091 列車の中ほどに積まれた黄緑色の廃棄物輸送コンテナの中には、処分される蛍光管や乾電池が詰まっています。

**正** 4091 列車の中ほどに積まれた黄緑色をした UM13A 廃棄物輸送用 コンテナの積荷は、道内から秋田へと向かうシュレッダーダストです。解説 本州から留辺薬イトムカ鉱業所へ輸送されていた廃乾電池や廃蛍光灯は、当時、W18D(「〇環:マルかん」と呼ばれる JR貨物の廃棄物輸送コンテナ)を使用していました。

##### 2. 第3部や第5部など 字幕数カ所に同一の誤字

**誤** 東室蘭(繰)、釧路(繰)、 **正** 東室蘭(操)、釧路(操)、

##### 3. 第4部 LNG 輸送の中のコンテナ形式

**誤** UT24C 形式 38000 番代、 **正** UT26C 形式 38100 番代

##### 4. 第5部 釧網線のC重油輸送列車を解説したナレーション

**誤** 「使用されたタンク車はタキ 11000 形やタキ 17000 形などで、いずれもタンク本体に高張力鋼を使用し、軽量化が図られています。」

**正** 「タンク車には、タキ 11000 形式やタキ 17000 形式の他に、たった1両だけ在籍したタキ 20000 形式も使用されていました。これら3形式のタンク車には、いずれもタンク本体に高張力鋼が使用されて、軽量化が図られました。」

##### 5. 道内石油輸送に関する名称

**誤** 日本オイルターミナル旭川油槽所、読み「にっぽん」

**正** 日本オイルターミナル旭川営業所、読み「にほん」

##### 6. 音別駅にて解結を行う貨物列車について

**誤** 音別駅で行われているコキ車の解放・連結に関する説明内容

**正** 音別駅では、下り列車対してコキ車の解放が行われます。一方、上り列車に対しては、清涼飲料水などを積んだコンテナを積載したコキ車の連結作業が行われます。

##### 7. 上の6で、音別駅を発車した下り列車に関するナレーション解説の中での駅名

**誤** 「厚別駅」 **正** 「厚内駅」：音別から釧路へ向かって次の駅

## 【DVD「北海道編」の発売時点(2007年)と比較したその後の変化】

### 【第1部】

- O4097レは、3083レとして、東海道～東北線経由で運転されています。
- 現在では見ることができないコンテナは以下の通り
  - C35,C36,18D,V18B,V18C,W18D など、国鉄から継承されたコンテナや
  - JR貨物18シリーズ(水色&クリーム)コンテナは、老朽化のため 用途廃止となりました。
- 札幌タで入換中の映像に、ヤンマーの UF15A,UF16Aなどが確認されますが、同社はリース業からすでに撤退したため現存しません。なお、使用されていたコンテナの一部は、日本通運、北海道通運、丸和通運、高知通運などに引き継がれて 塗装変更されて、現在も使用されています。

### 【第2部】

- 旧2059レは現在3067レとなって運転中。コキ25000形式で組成された列車でしたが、コキ25000はすでに廃車となったため、コキ25000のみで組成された貨物列車は消滅しています。
- 日本における最長距離運転列車として有名な3099レですが、現在は青森(信)を通り、一旦東青森駅まで運転された後に、折り返して札幌タに向かう経路となったため、東青森～札幌タ間の列車番号は99レとなりました。
- 旧4092レは現在3082レとなって運転中。経路は、東北線～東海道線。五稜郭駅(JR貨物:現、函館貨物駅)での連結作業は継続されています。五稜郭貨物駅(現、函館貨物駅)で、入換中のコキ車に積載された函館運送UR1形式コンテナは老朽化で用途廃止されたため、現在は見るできません。
- 旧4098レは現在該当する列車番号を有する列車は存在しません。王子製紙からの紙製品を関西方面へ輸送するJR貨物のコンテナは、現在の3082レに連結されています。
- 旧5263レは廃止されました。2008年3月12日が最終運転日でした。
- 旧5371レは、2012年3月改正で臨時貨物列車に格下げとなり、さらに2012年5月に輸送廃止。
- 旧3056レは廃止され、当時は途中の萩野で連結解放がありました。2008年3月改正でチップ輸送が廃止され、日本製紙白老工場内の専用線も廃止されたため、萩野で連結解放するコンテナ列車は現存しません。
- 旧94レ・・・東日本大震災による常磐線不通のため東北線迂回となりましたが、2012年3月改正から奥羽～羽越～信越～上越～高崎線経由で運転されています。

### 【第3部】

- ジャガイモ輸送季節臨時列車「土幌臨」は、2011年度については、奥羽～羽越～信越～上越～高崎線経由で運転されました。DVD「関東・甲信越編」に一部の列車を収録しています。  
2012年度は、「帯広貨-9078レ-東室蘭操-8052レ-大宮操-9077レ-熊谷タ」と東北線経由に戻されました。
- シキ810はすでに廃車されました。シキ801へ部品が提供されたようです。
- 社名変更 新日本石油室蘭製油所は、JX日鉱日石エネルギーを経て、現在はJXTGエネルギーに。
- 道内石油輸送列車とタンク車の動向については、2014年5月29日の輸送を以て消滅しました。  
北旭川と帯広貨物向けの石油輸送は、2012年5月をもって、廃止されました。  
タンク車については、タキ40000形式は、14両が陣屋町駅からミャンマーへ輸出されました。  
タキ38000形式とタキ11000形式は全車廃車となりました。

タキ43000、44000、243000の各形式については、ほとんどが転属となり、浜五井(京葉臨海鉄道)、や東港(神奈川臨海鉄道)へ回送されました。

○十勝鉄道は、2012年5月で営業廃止となり、コンテナ輸送も終了しています。

#### 【第4部】

○LNG 輸送は、一部が残存しています。輸送区間: 苫小牧～北旭川/苫小牧～帯広貨物。

新富士(現:釧路夕)までの輸送は、当初、白糠の工場向けでした。

○石勝線5471レは、2012年3月改正で臨時貨物列車となり、同年5月輸送廃止。

2091レは、現在は 2093レとして運転されています。

2095レは、現在は札幌夕→新富士間の列車となっています。

○室蘭線 5371レは、2012年3月改正で臨時貨物列車となり、同年5月輸送廃止。

8075レは、現在運転されておらず、石北線内での貨物列車 同士の交換もみられません。

※ 石北臨貨:現在は一往復のみの運転となっています。